PBR LENDING

# QUARTERLY REPORT

## 25-4Q

2025 10-12

PORTOBELLO ROAD

# PBR Highlights Dashboard | 25-4Q

運用レポートの情報をこの一枚に。
2025年 10月-12月の実績と動きの概況が、ひと目でわかります。

## 運用成績

**+3.7%**

前Q差：+0.5%

## 年率換算

**+14.1%**

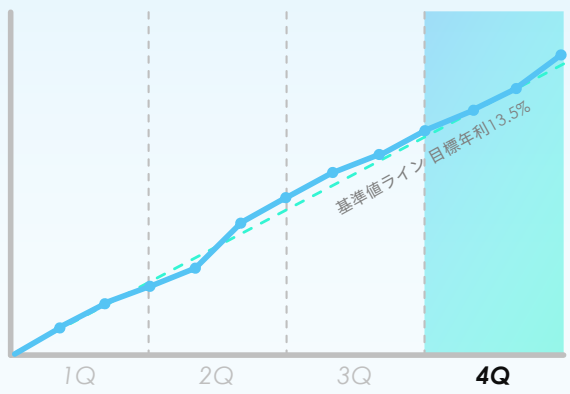
前Q差：+0.2%

## 基準との差

**+0.6%**

前Q差：+0.2%

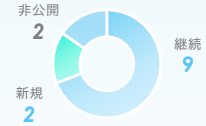
## パフォーマンス




## 運用パートナー

*1 **13**

前Q差：+1




## 運用通貨割合

*1







## 心を込めた、年末年始感謝還元祭 おかげさまで 無事に終えることができました




## 返還申請から完了までの平均営業日数

**1.7日**

前Q差：-0.3日

目標：3 営業日以内
規約：7 営業日以内

※土日祝・夏季休業中は除く

## 遅延・未払件数

**0件**

前Q差：0件

## 事件・事故件数

**0件**

前Q差：-1件



### 暗号資産市場、急落

トランプ関税ショックとその後のリスク回避で記録的下落。




### ETF 過去最大の59.5億ドル流入

BTCは10月前半、120,000ドル突破し最高圏へ。

※1 運用先との契約のため、一部の情報は非公開としています。

# PBR Highlights Dashboard | 解説

PBR Highlights Dashboard では、対象期間の運用実績やサービス指標などをまとめて表示しています。
はじめてご覧になる方は、どうぞこちらの解説と合わせてご覧ください。

## ● 投資運用情報

期間中の運用関連重要指標を
まとめて表示しています。

### 年・四半期

本資料の該当期間を表示しています。
25-3Q = 2025年 第3四半期　（Q = 四半期）

### 運用成績

3ヵ月合計の
運用成績（損益率）を
前Q差と共に
表示しています。

### 年率換算

運用成績を元に
年に換算した損益率を
前Q差と共に
表示しています。

### 基準との差

年率換算の損益率を
基準値と比べ
前Q差と共に
表示しています。
（基準値 = 目標年利13.5%）




### パフォーマンス

月別損益率グラフ
を基準値と比べ傾向を
表示しています。

### 運用パートナー

投資運用先の数を
前Q差と共に
表示しています。
（継続・新規・非公開）

### 運用通貨割合

運用している通貨割合を
概算割合として
面積で表示しています。

各運用先との契約内容が
異なるため概算としています。

## ● サービス指標

期間中のサービス重要指標を
まとめて掲載しています。

### 返還申請から完了までの平均営業日数

申請から返還までの
平均営業日数を
前Q差と共に
表示しています。

### 事件・事故件数

事件や事故の発生件数を
前Q差と共に
表示しています。

### 遅延・未払件数

返還を規定日、未払など
の発生件数を
前Q差と共に
表示しています。

## ● 暗号資産NEWS

期間中の注目を浴びた
暗号資産NEWSを
紹介しています。

# 01 マーケットダイジェスト

世界の景気動向から金融・暗号資産のトレンドまで、四半期ごとの重要ポイントを凝縮。
期間中のマーケット全体を一枚で振り返れるレポートです。



## 世界経済・金融市場概況

2025年10〜12月期の世界経済は、減速基調を維持しながらも景気後退を回避し、全体として底堅さを保つ展開となりました。国際通貨基金（IMF）は2025年の世界成長率を3.2%と見込み、インフレ鈍化の進展とともに「高インフレ対応」から「安定成長への移行」が鮮明となりました。一方、経済協力開発機構の統計ではG20の成長率が前期比で減速しており、世界経済は緩やかな減速局面にあることが確認されています。

物価と金融政策においては、ディスインフレが進む一方で各国の対応は分化しました。欧州では政策金利が据え置かれ、英国は利下げへ転じる一方、日本では利上げが継続されるなど、金融政策は一様ではなく各国事情に応じた運営が目立ちました。この結果、金利差や資金フローの変動が投資環境に影響を与えました。

金融・投資市場では、リスク選好は維持されつつも選別色が強まりました。株式市場はAI関連を中心に底堅く推移しましたが、高バリュエーションに対する警戒感も強まり、上昇は一部銘柄に集中しました。債券市場では利下げ期待を背景に一定の支えが見られ、株式と債券が同時に評価される局面も確認されました。

日本市場は、景気回復とインフレ定着を背景に独自の動きを示しました。物価は2%台を維持し、雇用も安定する中で金融政策の正常化が進展し、国内資産への注目が高まりました。株式・債券ともに、金利とインフレの動向が価格形成に与える影響が一段と強まっています。

為替市場では、ドルの上昇圧力が徐々に弱まる一方で、円の戻りは限定的でした。日米金利差が依然として大きく、円安基調が継続したことから、対ユーロ・対ドルともに円は相対的に弱い動きとなりました。

暗号資産市場は、10月上旬に非常に強い上昇を見せたあと、10月10日前後の急落をきっかけに不安定化し、11月〜12月はリスク回避の強まりで軟調に推移しました。BTCは10月上旬に史上最高値を更新しましたが、その後は関税関連ニュースなどで大規模な清算が発生し、12月末には「2022年以来初の年間下落」で年を終えた結果となりました。

## 暗号資産 注目ニュース *TOP3*




### ETF資金流入過去最大

暗号資産ETFに週次59.5億ドルの過去最大流入。BTCは史上最高値圏へ上昇し、ETHやXRPにも資金波及しました。

### 関税発表で大規模清算

関税発表を契機に暗号資産市場で190億ドル超の清算が発生。BTCは2日で▲14%超、ETHも急落し市場は一気に下落しました。




### XRP企業大型上場計画

Ripple支援企業が10億ドル超調達を目指しNasdaq上場計画を発表。XRPを蓄積する最大級企業構想として市場で強い注目を集めました。

# 02 暗号資産ダイジェスト

PBR LENDING が取り扱う6種類の暗号資産の動向と注目ニュースをまとめて掲載。
四半期の各暗号資産を手軽に振り返られる暗号資産レポートです。




## 史上最高値更新から急落へ

10月上旬に史上最高値圏まで上昇した後、関税発表を契機とした大規模清算で急落し、その後もリスク回避の流れが続き、下落基調で推移しました。

**NEWS**
10月：暗号資産ETFに過去最大の資金流入で史上最高値。
10月：関税発表を契機に大規模清算、急落局面へ。




## 高ボラティリティが顕在化

ETF資金流入局面では上昇したものの、10月中旬の急落以降はBTC以上にボラティリティが高まり、売り圧力が継続し、12月も弱含みで推移しました。

**NEWS**
10月：ETF資金流入でBTCとともに上昇局面に入る。
10月：市場全体の清算で大幅下落（BTCと連動）。




## 全体調整に押され31%下落

10月上旬は市場全体に連動し上昇も、その後は急落と調整局面に巻き込まれ下落しました。Ripple関連の好材料はありましたが、戻りは限定的です。

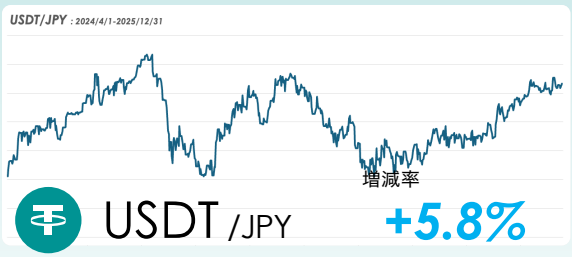
**NEWS**
10月： Ripple関連企業が10億ドル規模の資金調達計画。
12月： Rippleが米国で信託銀行設立の初期承認を取得。




## 材料不足と資金流出で失速

明確な上昇材料に乏しく、市場全体のリスクオフの影響を強く受けて下落。特に中小アルトとして売り圧力が強まり、6通貨の中で最大の下落率でした。

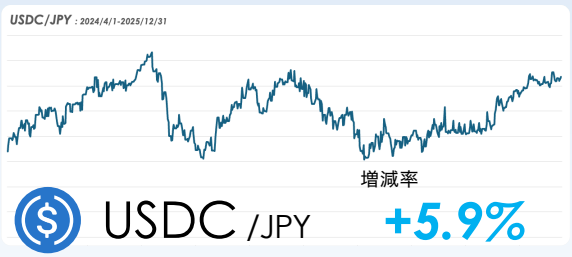
**NEWS**
10月～12月：市場全体のリスクオフの影響で下落。
11月：不正なトランザクションでネットワークが一時分断。




## リスク回避資産として機能

価格自体は安定して推移しました。為替の影響により円建てでは上昇し、約5.8%の上昇。市場のリスク回避局面では資金退避先として機能しました。

**NEWS**
11月：ステーブルコインが市場リスク回避資産として注目。
12月：システミックリスク（崩壊リスク）が議論に。




## 制度進展が追い風

USDT同様にドル連動で安定推移しつつ、円安の影響で円建て価格は上昇。12月には信託銀行承認ニュースもあり、信頼性向上の材料となりました。

**NEWS**
12月： Circleが米国で信託銀行設立の初期承認を取得。
10月～12月：規制・金融インフラとの統合テーマが進展。

※ 表示している『 増減率 』は、レポート四半期期間の開始日と終了日の日本円換算値の増減率です。

03

# パフォーマンス

運用成績の増減率や年率換算値、通貨割合などを掲載。
四半期ごとのパフォーマンスを一目で把握し、運用の傾向をご報告するページです。

**運用成績**

+3.2% ▶ **+3.7%**

前Q差：**+0.5%**

**年率成績**

+13.9% ▶ **+14.1%**

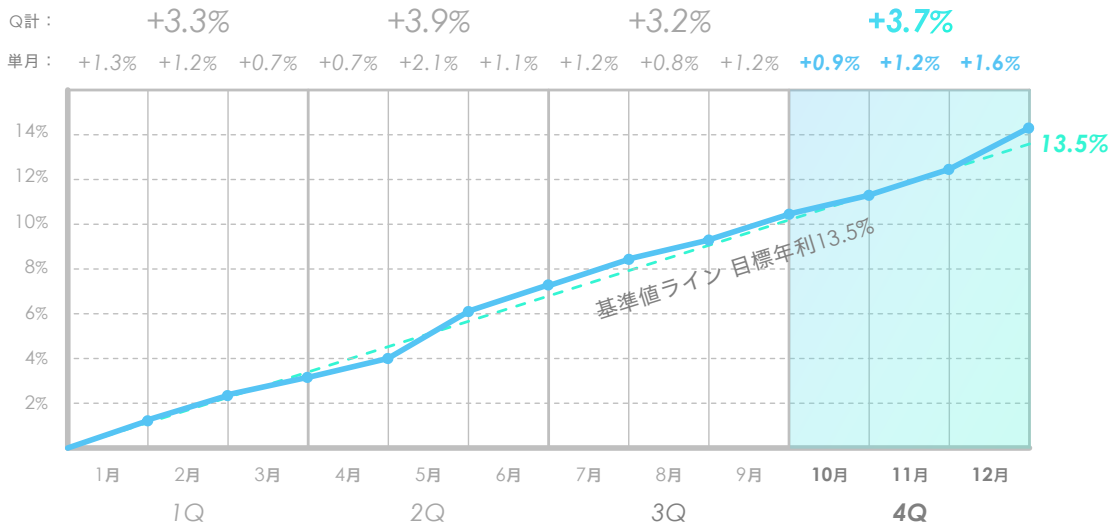
前Q差：**+0.2%**

**基準との差**

+0.4% ▶ **+0.6%**

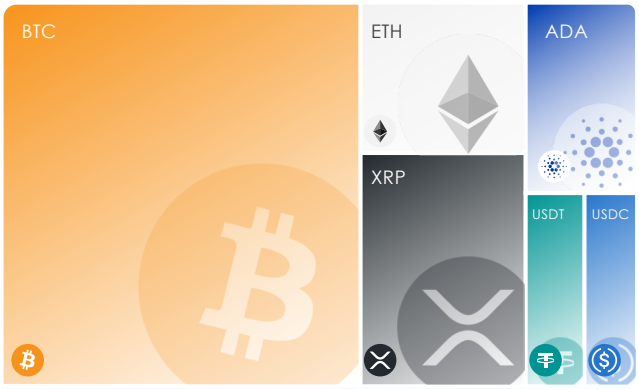
前Q差：**+0.2%**

**パフォーマンス**



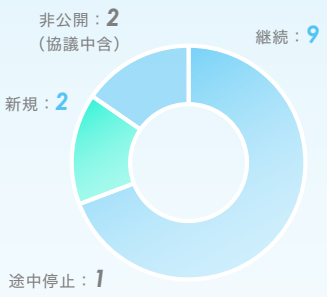

## 運用成績について

4Qの運用成績は+3.7%となり、上昇トレンドをさらに伸ばすことができました。年率は14.1%で着地し、目標基準である13.5%を安定して上回っています。特に11月+1.2%、12月+1.6%と期末にかけて伸びが加速したことが、全体の成長を押し上げました。基準値との差も約+0.5%のプラスへ拡大しており、計画以上に順調なパフォーマンス推移となりました。




## 運用通貨割合（概算割合）

貸出数量でXRP比率が若干向上しADA比率はやや減少しましたが、BTC比率が高い状況が継続しています。




**運用パートナー数**

12 ▶ **13**

前Q差：**+1**

## 運用ポートフォリオ

3Qから13社構成（+1）となり分散運用が進みました。
26年稼働予定が11月に前倒しスタートしています。

04

# ポートフォリオ

投資・運用中のファンドの一覧です。
運用通貨や四半期の成績、年率換算値などをご報告するページです。

## 継続

### 香港 クリプトファンド A
トレンド予測とテクニカル指標のトレード運用

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +2.5% | +11.6% |

### 日本 クリプトファンド A
テクニカル中心のアルゴリズムとロット管理運用システム

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +1.5% | +3.1% |

### マレーシア クリプトファンド A
4通貨を高頻度スワップアービトラージ

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +5.3% | +13.7% |

### 日本 クリプト運用 B
独自開発のアルゴリズムによるテクニカル中心の運用

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +9.9% | +45.5% |

### 香港 クリプトファンド A
テクニカル指標による予測アルゴリズム

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +8.1% | +17.4% |

### コモロ クリプトファンド A
トレンド予測とテクニカル指標のアルゴリズム
※ 2025年3Q（9月）で契約満了 → 4Qまで期間延長。

| 4Q成績 | 年利固定 |
|---|---|
| +3.0% | +12.0% |

### 日本 クリプト建て運用 C
独自のアルゴリズムで複数ポジションを個別利確

| 4Q成績 | 年利固定 |
|---|---|
| +3.0% | +12.0% |

### 韓国 クリプトファンド A
トレンド予測とテクニカル指標のアルゴリズム

| 4Q成績 | 年利固定 |
|---|---|
| +3.0% | +12.0% |

### 日本 クリプトファンド D
50を超えるアルゴリズムが独立してトレード

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +5.5% | +15.2% |

04

# ポートフォリオ

投資・運用中のファンドの一覧です。
運用通貨や四半期の成績、年率換算値などをご報告するページです。

## 新規

2025 4Q（11月中旬）運用開始

### ケイマン クリプトファンド A

独立したプログラム群のポートフォリオを適時最適化

| 4Q成績 | 年率換算 |
|---|---|
| +7.5% | +30.7% |

～11月テスト／12月～運良開始

### 日本 クリプト建て運用 E

AI活用した新しい仕掛けのイールドファーミング

| 4Q成績 | 年率換算 |
|---|---|
| +2.0% | +14.0% |

## 共同事業投資

### 防災用品製造企業

2025年12月 増資

３分の１に芯が縮む画期的トイレットペーパー製造

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +0.9% | +3.7% |

### 金 売買・海外採掘事業

ゴールドを担保とするために

| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +53.5% | +82.9% |

### データセンター開発

2025年12月 増資

最新の不動産投資はデータセンターへ

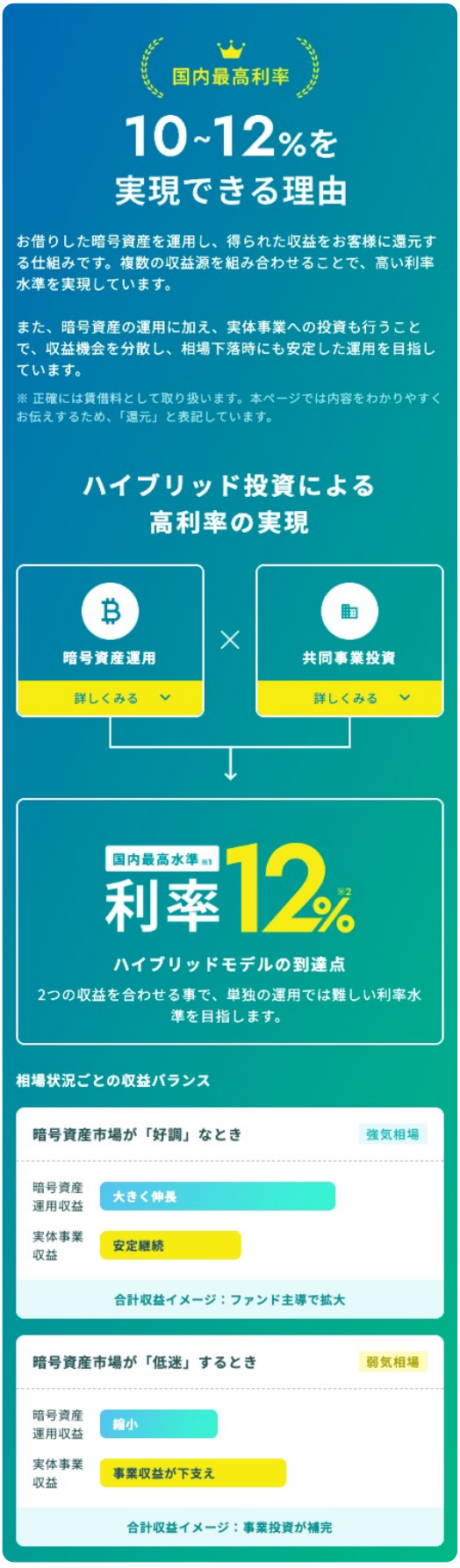
| 4Q成績 | 年率成績 |
|---|---|
| +9.9% | +40.0% OVER |

※データセンター開発は、一部契約公開内容が緩和・見直しされましたので、年率を更新しました。20%over → 40%over

05

# ハイブリッド投資

これまで PBR LENDING が構築してきた「暗号資産運用」と「共同事業投資」を兼ねた、
ハイブリッド投資について詳しく解説します。




近年、資産運用の世界では「一つの手法に依存しないこと」が重要視されています。株式だけ、債券だけ、あるいは暗号資産だけに資産を集中させるのではなく、それぞれの特性を活かしながら組み合わせることで、安定性と収益性の両立を図る考え方が広がっています。こうした背景の中で注目されているのが「ハイブリッド投資」というアプローチです。

ハイブリッド投資とは、異なる性質を持つ複数の投資対象を組み合わせることで、リスクを分散しながら効率的な収益を目指す投資手法を指します。単一の市場環境に左右されにくくなるため、市場の変動に対して柔軟に対応できる点が大きな特徴です。特に、価格変動が大きい暗号資産の世界においては、この考え方が極めて重要になります。

PBRレンディングが採用しているハイブリッド投資は、大きく分けて「暗号資産運用」と「共同事業投資」の2つを組み合わせた独自のモデルです。暗号資産運用は、国内外の信頼性の高い運用先へ分散しながら収益を積み上げていくものです。一方で共同事業投資は、実体経済に紐づく事業への投資を指します。たとえば、データセンター開発やインフラ関連事業、防災分野、資源関連など、比較的収益の見通しが立てやすい分野に対して資金を投じることで、安定したキャッシュフローを確保しています。

この2つを組み合わせることにより、暗号資産特有のボラティリティの影響を抑えつつ、持続的な利回りの確保を実現している点がPBRレンディングの特徴です。暗号資産市場が好調な局面では暗号資産の収益が伸びやすく、一方で市場が不安定な局面では共同事業投資による安定収益が全体を下支えします。この構造により、「価格に依存しすぎない運用」が可能となり、結果として年利10〜12%という水準の維持につながっています。

さらに重要なのは、単に収益を追求するだけでなく、「資産の数量を増やす」という思想に基づいている点です。PBRレンディングでは、暗号資産を売却して利益を確定させるのではなく、あくまで暗号資産のまま運用し、数量そのものを増やしていくことを重視しています。これにより、将来的な価格上昇の恩恵を享受しながら、同時に運用益も積み上げていくという二重の価値創出を目指しています。

また、共同事業投資においても、収益構造が明確で再現性の高い事業に限定して投資を行うことで、リスク管理を徹底しています。加えて、複数の投資先へ分散することで、一つの事業に依存しないポートフォリオ設計を行っており、これもハイブリッド投資の安定性を支える重要な要素となっています。

PBRレンディングのハイブリッド投資は、単なる「組み合わせ」ではなく、それぞれの投資の役割を明確に定義し、相互補完的に機能させることで初めて成立する高度な運用モデルです。暗号資産の成長性と実体経済の安定性、この二つを融合させることで、これまでにない資産運用の形を提供しています。

ご利用者の皆様にとっては、単に高い利回りを得る手段としてだけでなく、「なぜその利回りが実現できているのか」という背景を理解いただくことが、より安心して資産を預けていただく上で重要になります。PBRレンディングは、透明性のある情報開示とともに、このハイブリッド投資の仕組みを通じて、持続可能で信頼性の高い資産運用の実現を目指してまいります。

06

# サービス

サービスの質向上に向けた取り組みをまとめた四半期レポート。
平均対応日数や改善状況などを通じて、サービスの動向をわかりやすく振り返ることができます。

### 返還申請から完了までの平均営業日数

1.94日 ▶ **1.7日**

前Q差：**-0.3日**

### 遅延・未払件数

**0件**

前Q差：**0件**

### 事件・事故件数

**0件**

前Q差：**-1件**

## サービス改善

4Qにおける資産返還の平均営業日数は1.7日となり、前期比で0.3日短縮しました。1Q時点では平均4.2日を要していたことを踏まえると、返還体制の改善は着実に成果を上げており、目標として掲げていた「3営業日以内」を大きく上回る水準で、安定的かつ円滑な資産返還を実現しています。
また、2025年9月の事案発生以降、当社では業務運営および管理体制の抜本的な見直しを継続してまいりました。その結果、4Qにおいては事件・事故ともに0件となり、再発防止に向けた取り組みが一定の形で運用面に反映されたものと認識しています。
情報セキュリティ面においても、4Qを通じて外部専門事業者と連携しながら、管理水準の見直しと強化を継続しました。とりわけ、社内監視体制をはじめとする統制環境については、社内外の視点を取り入れながら改善を重ねており、変化する社会環境やリスク水準に対応できる、より実効性の高い体制整備を進めています。

## サポート改善

資産返還体制の改善と並行して、4Qでは顧客対応品質そのものの再構築にも注力しました。単に問い合わせへ回答する体制ではなく、「迅速であること」と「的確であること」を両立するサポート基盤へと進化させることを重視し、運用・人材・仕組みの各側面から見直しを進めています。
具体的には、AIチャットボットの精度向上を進めたことで、お客様から寄せられる多様な質問に対し、これまで以上に正確かつ一貫性のある案内が可能となりました。あわせて、社内のサポート体制も継続的に強化し、個別性の高い相談や判断を要する問い合わせに対しても、できる限りタイムリーかつ丁寧に、最適な回答を届ける体制を整えています。
また、実務面では高い専門性を備えたサポートスタッフが、迅速かつ誠実に対応できる体制を拡充しました。さらに、対応品質を属人的なものにとどめないため、サポートスタッフの教育体制も体系化し、高水準の回答品質を安定的に提供できるチームづくりを進めています。
その結果、顧客接点においては「早く解決できた」「安心して相談できた」といった評価につながる土台が整い、当社のCSは、スピード・精度・丁寧さを兼ね備えた信頼性の高い支援体制として、着実に成熟を深めています。

## お客様の声

4Qでは、「年末年始感謝還元祭」に関するお問い合わせが多く寄せられ、特に参加条件や招待対象に関するご質問が目立ちました。これを受け、今後のキャンペーンでは、より明確で誤解の生じにくい案内設計へと改善を進めてまいります。また、法人のお客様からのご相談も多く、対応フローや案内体制を見直すうえで有益な示唆を得ることができました。今後は、法人対応についても、より迅速かつ的確にご案内できる体制の強化を図ってまいります。

07

# 25-4Q

四半期の運用状況や取り組み成果を総合的に振り返るまとめです。
成長の要因や市場動向、顧客対応の成果などをまとめ、この四半期の歩みをご報告いたします。




## *PBR LENDING* からのメッセージ

2025年10月～12月期は、世界経済・金融市場・暗号資産市場のいずれにおいても、「大きく崩れないが、安定もしきらない」という特徴的な環境となりました。世界経済は減速しながらも景気後退は回避され、金融政策もインフレ抑制から安定成長へと徐々に軸足を移しつつあります。ただし、市場全体としては資金の動きが不安定で、短期間で状況が変わりやすい、いわば“判断の難しい局面”が続きました。

暗号資産市場も同様に、10月上旬までは強い上昇を見せたものの、その後は大規模な売り（清算）やリスク回避の流れにより、年末にかけて不安定な推移となりました。BTCやETHなど主要な暗号資産は、円建てで見ると大きく下落し、価格の変動幅の大きさが改めて意識される結果となりました。一方で、USDTやUSDCといったステーブルコインは価格の安定性を保ちつつ、円安の影響で円建てでは上昇し、市場が不安定な局面において資金の避難先としての役割を果たしました。

このように、同じ「暗号資産」であっても、その役割や動き方は大きく異なります。上昇局面で収益を狙う資産と、下落局面で価値を守る資産を適切に組み合わせることが、安定した運用において重要であると、改めて認識した四半期でした。

当四半期の運用成績は+3.7%、年率換算では14.1%となり、目標としている水準を上回る結果となりました。特に年末にかけて成績が伸びたことは、相場の変化に対して一定の対応ができた結果と考えています。ただし、こうした数字はあくまで一つの結果であり、短期的な成績だけで運用の良し悪しが決まるものではありません。重要なのは、変動の大きい市場環境の中でも、安定して成果を積み重ねていけるかどうかです。私たちはこの点を常に意識し、過度に楽観的な見方をすることなく、慎重な運用を継続しています。

また、運用の中身としては、暗号資産の運用に加えて、複数のファンドや共同事業への投資を組み合わせることで、収益源の分散を進めました。これにより、特定の市場環境に依存しすぎない体制を整えています。たとえば、データセンター開発や資源関連事業など、異なる分野への投資を組み合わせることで、リスクを分散しながら収益機会を広げています。これは、暗号資産市場の価格変動に左右されにくい運用基盤を構築するための重要な取り組みです。

さらに、当社では「運用成績」だけでなく、「サービスの質」も同じくらい重要と考えています。当四半期では、資産返還までの平均日数を1.7日まで短縮し、遅延・未払は0件、トラブルも0件という結果となりました。加えて、サポート体制の強化やAIによる問い合わせ対応の精度向上を進めることで、お客様が安心してご利用いただける環境づくりにも取り組んでいます。

投資においては、利回りの高さだけでなく、「いつでも引き出せる安心感」や「問題が起きた際に適切に対応される体制」も非常に重要です。私たちは、こうした目に見えにくい部分こそが長期的な信頼につながると考えています。

総じて、2025年10月～12月期は、市場の変動が大きい中でも、運用・分散・サービスの各面で着実な前進が確認できた四半期でした。しかしながら、市場環境は今後も変化し続けます。だからこそ、私たちは短期的な成果に一喜一憂するのではなく、長期的に安定した運用を目指し、日々の改善と積み重ねを大切にしてまいります。

引き続き、お客様の大切な資産をお預かりする立場として、謙虚な姿勢を忘れず、透明性のある情報開示と堅実な運用に努めてまいります。

END